

尾上の郷だより

第3号

平成21年1月発行

発行責任者
：渡部博也

編集
：マナー委員会



尾上の郷は、「ほんまもん」の介護を追求し、地域社会に貢献することを経営の理念とします。

「新年のごあいさつ」



仙齡会 理事長
荒尾 潤

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

近年、社会福祉を取り巻く環境も大変な厳しさをみせております。介護従事者の重労働、低賃金による離職率の高さは毎日のように報道され社会問題となっております。

このように厳しい状況のなか、昨年度は小規模多機能施設 尾上の郷を尾上デイサービスと併設し新規開設させていただくことができました。おかげさまでご好評いただき順調に運営できております。

また太子福祉会全体でも順調に運営できておりますのも皆様方のご支援ご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。これからも真に利用者が安心してサービスを受けられる施設となるよう努力してまいります所存です。

今後とも太子福祉会に対する皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。

「新年を迎えて」



尾上の郷 施設長
渡部 博也

あけましておめでとうございます。

新年のお慶びを申し上げますとともに、本年が皆さまにとってよいお年でありますことをお祈り申し上げます。尾上の郷は開設後2度目のお正月を迎えることとなりました。地域の皆さまのご支援ご協力の賜物と心より感謝しております。尾上の郷は小規模多機能施設、デイサービス、ヘルパーステーション、居宅支援事業を運営し、地域の介護サービス拠点として皆さまに愛される施設を目指しております。平成21年は介護保険制度が見直される年になっており、現在、厚生労働省の審議会等で改訂に向けた詰め議論がなされているところと見られます。このところ新聞、テレビで報道されていますように介護を取り巻く環境は大変厳しい状況が続いています。今年4月の改訂が皆さまと我々事業者にとってプラス改訂になるよう期待しています。

尾上の郷は法令遵守と利用者様に選んでいただける事業所を目指して今年も取り組んでまいります。本年もご支援とご協力をよろしくお願い致します。

小規模多機能事業所が第三者評価を受けました

小規模多機能施設は第三者（行政が選定した審査機関）の評価を受けることが義務づけられています。

昨年春から準備を始め9月に実地調査を受けました。その結果は12月になってインターネットで公表されており、審査機関からの報告内容は膨大ですので、ここでは報告概要表の中の「第三者評価で確認されたこの事業所の特徴」についてのみご紹介いたします。

「開設後間もない施設であるが、管理者・職員は「ほんまもん」の介護の実践を基本理念に掲げ、住み慣れた地域での生活の継続を支えるケアを目指している。施設の中は自然光が差し込み、暖色の壁面と広い廊下がゆったりとした暖かい雰囲気を感じさせている。事業所の多機能性を活かし、通所が困難な日は、馴染みの職員が配食サービスを行い、家族の状況によっては職員が通院に同行するなど柔軟な支援を行っている。職員の接遇は、礼儀正しく丁寧でやさしく利用者一人ひとりの尊厳への配慮と暖かさが感じられる。また、本人・家族の希望や生活習慣を大切に、日々の関わりの中で一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。自分から伝えられない利用者に対しては、思いにそった支援ができるよう努力している。」

評価を受けた審査機関はH・Rコーポレーションという西宮にある評価会社です。評価項目は全部で87項目あり、その内30項目について訪問による実地調査を受けました。各評価項目に対する審査コメントを参考に、よりよい施設を目指して努力していく予定です。

元文部科学大臣 渡海紀三郎議員の訪問を受ける

12月13日（土）のお昼過ぎに突然の訪問を受けました。しばらくの間、利用者さんとこやかに談笑されて帰られました。

利用者さんと談笑される渡海議員

